

LuckyHorse

日刊競馬

プレイバック 特別版

日刊競馬がお送りするプレイバック特別版!



③⑤	ホクトベガ	牝7	57	横山典弘	1.36.5	3人気
③④	アイオーユー	牝7	55	小野次郎	3 1/2	9人気
⑦⑧	スズノガイセンモン	牡6	57	岡部幸雄	1 1/2	6人気
単勝460円		枠連3-3		6,970円		
		馬連4-5		6,910円		

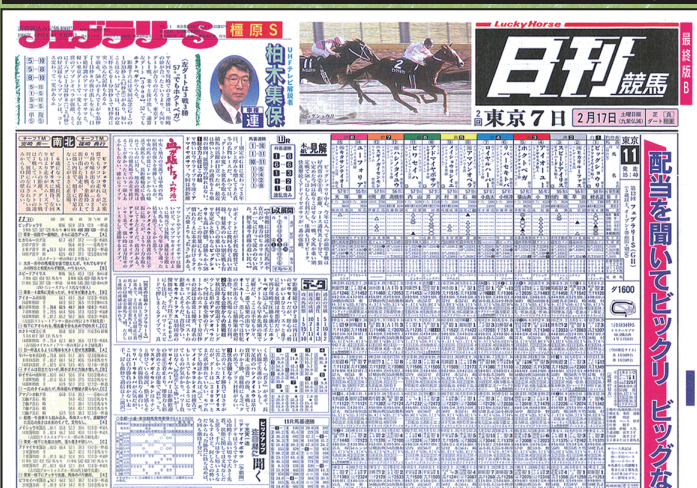
※年齢表記は当時のまま

赤	5	ホクトベガ	鹿
青	7	57牝7	
黄	8	横山典弘	
白	9	48295	
黒	0	中野隆	
緑	1	15111	
紫	2	14000	
茶	3	10301	
藍	4	11021	
水	5	31000	
土	6	11000	
金	7	2035	
銀	8	490	
銅	9	1.1	



ホームページの人気コラム『日刊競馬で振り返るGI』ホクトベガもご覧ください。

日刊競馬ホームページ <http://www.nikkankeiba.co.jp>



▲当時の新聞 (PDFバックナンバーを購入されたと拡大・プリントも可能)

1996年2月17日(平成8年)東京競馬場 フェブラリーS (GII) ダート1600M

ホクトベガ

◎フェブラリースの変遷

今年で29回目を迎えるフェブラリース。現在の賞金額は国内ダート戦としてはジャパンカップダートに続いて第2位。超流ダート馬の活躍の場として定着しています。

ただし、第1回は「GⅢ」。1984年(昭和59年)、グレート制導入時に『フェブラリーH』として創設されました。つまり、GⅢのハンデ戦。重賞で一番格下の形でスタートしました。

GⅡ昇格は10年後の1994年(平成6年)。同時に別定戦になり、レース名が現在の『フェブラリーステークス』に変更。さらに3年後の1997年(平成9年)、中央競馬初のダートGⅠ競走となります。中央・地方の交流重賞が増える中で、主要な位置を占めた結果といえるでしょう。

今回紹介するフェブラリースは1996年(平成8年)。3年間しかなかったGⅡ時代の最後のレースで、勝ったのがホクトベガというのが当時から大きなよきを表しています。

◎ダートの女優 ホクトベガ

前走の川崎記念を53キロで快勝したホクトベガはフェブラリースでは57キロを背負って3番人気でした。中団追走から早々まくり切って4コーナー先頭。直線の長い東京では力が違わないと押し切るのが難しい戦法ですが、終わってみれば後続に3馬身半差。堂々の横綱相撲でした。

ホクトベガは、この年、ダイオライト記念、群馬杯、南部杯、浦和記念も勝ち、さらに翌年の川崎記念で連覇達成。前年のエンプレス杯優勝も加えると、交流重賞10連覇の離れ業を演じています。その後、引退レースのドバイワールドカップで競走中止、予後不良の悲劇が待っているのですが、彼女が残した偉大な足跡が色あせることは永遠にありません。

過去から学び、未来に備える方には貴重な資料となる『日刊競馬PDF新聞』。パソコンの大画面で、鮮やかに、じっくり振り返ってみてください。



1996年 平成8年)の中央競馬
高松宮杯(現在の高松宮記念)がGⅠ昇格、NHKマイルCと秋華賞がGⅠとして新設、GⅠ勝数の内訳は、関西馬11、関東馬7、外国馬1。馬券の売り上げは約3兆9862億円で、昨年(約2兆2935億円)より1兆7000億円近く多かった。勝利数は獲得賞金のNo.1騎手は武豊、JRA初の女性騎手3名がデビュー。年度代表馬はサクラロレル。五冠馬シンザンが死亡。JRAイメジキヤクワターは本木雅弘と鶴田真由。キャッチフレーズは「ひとりとひとりに競馬はつくりい」。

《主なGⅠ優勝馬》
皇宮賞Ⅱシンザンデー
桜花賞Ⅱフサイチカバ
天皇賞 春Ⅱサクラロレル
オークスⅡエイチコウ
ダービーⅡエイチコウ
安田記念Ⅱロッドサンダー
宝塚記念Ⅱマヤノトップガン
菊花賞Ⅱダンスインザパーク
天皇賞 秋Ⅱガムフェロー
ジャパンカップⅡスピル
有馬記念Ⅱサクラロレル

1996年2月の新聞は日刊競馬PDF新聞バックナンバー販売ページにおいて、1部200円で購入できます。
日刊競馬PDF新聞バックナンバー <http://www.nikkankeiba.com/pdf/backnumber.php>